神奈川大学21世紀COEプログラム
「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書
Report on the Results of "Systematization of Nonwritten Cultural Materials for the Study of Human Societies" Kanagawa University 21st Century COE Program

日本近世生活絵引

東海道編

Pictopedia of Everyday Life in Early Modern Japan compiled from *Tokaido Meisyo Zue*

神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議
The Kanagawa University 21st Century COE Program Center

まえがき

私たちは知識を確認し、情報を整理するために古くから事典や辞書を用いてきました。事典や辞書は、原則として調べるための窓口を文字で行っています。五十音順やアルファベット順に配列された見出しが辞書の基本的形態といえます。しかし、文字を窓口にした辞書は、見出し語が読めなければ辞書を利用することができません。その点で限界があります。そこで、考えられたのが、絵を窓口にして調べる辞典です。図解辞典と称される様々な辞典が世界各地で編纂されてきました。それは絵を見て、そこに描かれた事物から単語やその意味を知ることができるもので、誰でもが容易に理解することができます。図解辞典は、辞書編纂に際して新たに図を描きます。説明に必要な限りで図に描きます。したがって、異なる時代や異なる文化が作り出した図像ではありません。

絵引という言葉は国語辞典にも収録されていない新しい単語です。字引に対して絵引という新しい発想に基づいて編纂された辞書を示す用語です。この言葉は日本常民文化研究所編『絵巻物による日本常民生活絵引』という全5巻の刊行を通して世に現れました。今から40年前のことです。日本中世に制作された絵巻物を資料として、主題やストーリーとは関係なく、描かれた事物や人々の行為から生活を知る手がかりを得ようとしたものです。刊行当初はあまり評判にならなかったようですが、次第にその価値が知られるようになり、今では中世の生活や文化、さらに日本文化を考える際には不可欠な研究工具となっております。

私どもの21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」を構想するに際して、先輩たちが実現した絵引編纂の継承・発展を一つの柱にすることに何の躊躇もありませんでした。『絵巻物による日本常民生活絵引』を世界的な共有財産にするためのマルチ言語版の編纂刊行、常民生活絵引を引き継ぐ、日本近世生活絵引の編纂、そして日本以外の地域での絵引編纂の可能性を検討するための東アジア生活絵引の編纂の3つの事業を行うことにしました。本書はその第2の課題である日本近世生活絵引の一巻です。『東海道名所図会』という、近世後期に評判になった地誌を素材として編纂に取り組んで参りました。京都から江戸にいたる東海道にそって展開する近世後期の生活を、描かれた図像から把握し、そこに示された情報を絵引という方式で今後の研究のために提供しようとするのが本書です。

絵引編纂を中心的課題とする第一班は、3つの課題に分かれることなく、全員で問題を検討してきました。しかし、対象と取り組むには私たちのメンバーだけでは不十分であることも明らかでした。編纂内容に応じて、研究蓄積のある専門研究者に調査研究協力者として参加を求めました。さらに、必要に応じてそれぞれの分野の専門家にも教示を仰ぎました。惜しみなくご支援下さった皆さんに感謝申し上げます。

本書は私たちが言う試案本です。完成品ではありません。研究過程で編纂された試みの作品です。本書を手に取られた皆さんの率直な批判を得て、より良い絵引にしていきたいと思います。どうか忌憚のないご意見をお聞かせいただきたくお願いいたします。

2007年12月

神奈川大学21世紀COEプログラム第1班代表
福田 アジオ